

研修のテーマ

・教師の発問や板書を学ぶ。(道徳・理科) ・目標とする授業のイメージを持つ。

1 視察期日 平成29年6月16日(金)・17日(土)

2 視察場所 筑波大学附属小学校

3 研修報告

(1) 研修の概要

筑波大学附属小学校で「道徳」を専科として教えている加藤宣行先生の公開授業や研究協議に参加し、発問や板書の工夫に目を向けて道徳研究部の授業改善の方向に学び、これからの教育実践の改善をはかっていく。(道徳)

本年度、中洲小で SSTA 全国大会が行なわれるが、その時の「いのちの教育」に参考になる授業を参観し、自分の実践に生かす。(理科)

(2) 公開授業から学んだこと

- 1 日目 教科「道徳」 主題名「友だちだからできること」
 内容項目 B「主として人との関わりに関すること」
 6「親切、思いやり」相手のことを思いやり、進んで親切にすること
 9「友情、信頼」友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
 教材名「わたしのしたこと」(光文書院 ゆたかな心)3学年

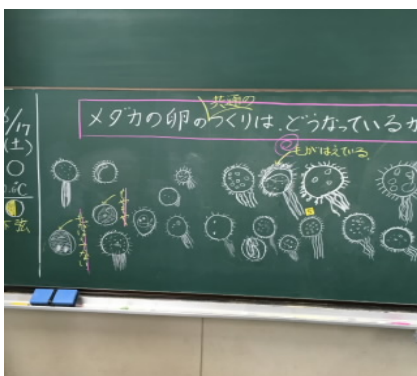


・この授業は、「親切」と「おせっかい」の違いについて子どもたちが考え、話し合い、これからの自分はどうなっていきたいかを考える展開の授業であった。

いくつかの親切な行動について、本当に親切なのかを問う教師の発問や問い返しに子どもたちが熱心に考え、話し合う姿が見られた。一見親切に見える行動も、結果として相手が望むことかどうか、相手の気持ちを思いやる心が大事であるという考えが子どもたちの意見として出された。

やはり、ねらいとする道徳的価値について、教師が明確なイメージをもって授業に臨むことが大切である。板書にも、この授業を通して、子どもたちの心情や考えの変容が表れている。加藤先生は、授業構想を板書計画で行なうとのことで、今後の授業改善に大変参考になった。

・2日目 教科「理科」 単元名「魚のたんじょう」



・この授業では、子どもたちが、これまで育ててきたメダカの卵の絵を、記憶を頼りに描くことから始まる。いざ絵を描き始めると、自分の記憶が曖昧であることに気づく。

友達の絵と自分の絵友達同士の絵を比較したとき、「いったいどうなっていたか？」と事実を問い始める。子どもたちは、本物に一番近い卵を選んだ理由を発表していく過程で、観察の視点が明確になっていき、もう一度見たいという思いが高まっていく。そして、ICT 機器を活用した観察へとつづいていく展開であった。

このように、教師の発問をきっかけに、子どもたちが自ら観察の視点を明確にし、観察意欲を高めてから活動に入ることによって、子どもたちの主体的な学び、深い学びが生まれることを学んだ。

(5) 今後の実践に生かしていくこと

道徳では、研修で学んだ通り、授業前に扱う資料の読み込みを行い、「資料の読み」と「ねらい」を明確にして授業準備をし、子どもが考えを深めるための発問と板書計画を立てて、授業に臨みたい。

理科では、9月に行なわれる SSTA 全国大会の授業「人のたんじょう」で、研修を生かして、子どもたちが意欲的に学びたい展開(主に導入)を考え実践したい。